



講演

2

気候変動下の熱中症の現状と将来及びその対策

気候変動適応センター 気候変動影響観測研究室 室長 岡 和孝

2023年および2024年の日本の夏期平均気温は過去最高を記録しました。このような高温の発生により、2024年には過去最多となる熱中症救急搬送数（97,578件）及び熱中症死亡数（2,033件）が記録されました。既に熱中症による健康影響が深刻であるなか、気候変動の進行により、さらなる悪化が懸念されます。このような状況に対応するために、国や地方公共団体、そして企業等によってさまざまな熱中症対策が実施されています。本講演では、このような熱中症に関する現状や対策動向に加え、我々の最新の研究成果についてもお話しさせていただきます。



講師プロフィール

岡 和孝（おか かずたか）先生

気候変動適応センター 気候変動影響観測研究室 室長



経 歴

理論宇宙物理学分野において博士号（理学）を取得後、コンサルティング会社において14年以上にわたり気候変動影響・適応に関する調査研究に従事。2018年7月に国立環境研究所に入所。現在は気候変動影響・適応（暑熱健康及びエネルギー）に関する研究を進めるとともに、事業者のための適応情報の発信等に従事。環境省「熱中症特別警戒情報に関するワーキング・グループ」座長や環境省「熱中症環境保健マニュアル」編集委員、自治体での熱中症に係る委員会委員等を多数務める。著書（いずれも共著）に「近代科学社『気候変動下の水・土砂災害適応策－社会実装に向けて－』」「技報堂出版『気候変動適応技術の社会実装ガイドブック』」等がある。



2025 年日本国際博覧会における「健康と気候変動」に関するパネルディスカッションの様子